

神奈川新聞 2007年7月11日 朝刊掲載

民主・藤井氏 衆院で繰り上げ当選へ

“最後のご奉公” 誓う

2005年衆院選で落選した民主党の藤井裕久元蔵相(75)が今月中に、衆院比例南関東ブロック選出の長浜博行氏の参院選から替えに伴い繰り上げ当選する見通しとなった。ただし今限りで引退する方針を固めており、任期中には「党の若手育成や団結のために役に立ちたい」と話している。

藤井氏は1993年、現民主党代表の小沢一郎氏らとともに自民党を離党して細川内閣で蔵相に就任。新進、自由党を経て、03年の民由合併後も幹事長など要職を努めた。14区で落選した後は引退表明していた。

藤井氏は取材に対し、公職選挙法上で比例の繰り上げ当選を辞退するには離党・除名処分などの条件が必要となるため「仕組みにのっとって引き受ける。ただし次の選挙は出ないつもりだ」と言明。「(解散が早ければ)最短で任期1ヵ月。満了まで行けば2年2ヵ月。国会でしっかりお役に立ちたい」と“最後のご奉公”を誓う。

当面の課題は参院選で、既に全国から応援要請が続々と寄せられている。小沢側近と呼ばれてきた藤井氏は「二大政党への思いを持って自民党を離れて10数年。今回こそそのような政治状況をつくらねば。小沢代表の決意も固い」と説明。「若い人たちに二大政党の一角を担う自信と責任を持ってもらいたい。党の団結のためにも尽力したい」と語っている。

総務省によると、12日の参院選公示日に衆院に欠員が生じたことを受け、10日～2週間後に中央選挙管理会が開く選挙会で藤井氏を当選人と定める予定。